

高文連商業部競技大会ワープロ競技実施要項

令和4年2月改正

- A. チームの編成
1. 選手は、高等学校に在籍する生徒に限る。ただし、ワープロに関する業務等に6ヶ月以上従事の実績がある者の参加を認めない。
 2. 1校1チームとし、6名以内(団体は、上位3名の合計点)の選手で編成する。ただし、補欠選手2名以内を認める。
 3. 大会当日の受付にて、競技順オーダー票を提出する。なお、選手変更は、登録者の範囲内とする。
- B. 競技種目
1. 速度競技とし、制限時間は10分間とする。ただし、印刷は時間外とする。
 2. 問題はA4判(1行30字・1頁30行・上質紙)とし、全商協会主催ビジネス文書実務検定試験出題基準に準じて作成する。なお、問題は1種類とする。
 3. 答案用紙はA4判(上質紙)とし、1人につき4枚配付する。
- C. 機械システム
1. 機械システムの形態、パソコンの機種は問わないが、文字の入力はキーボードに限る(その他の操作でマウスを使うことはできる)。ワープロ専用機や親指シフト・新JISキーボードは使用できない。
 2. キーボードの配列の方式は、JIS配列のものに限る。なお、キーキャップをはずすなどの改造・変更は認めない。また、キー配列を変更するソフトの使用は禁止とする。
 3. 会場内に搬入するシステムは、本体・プリンタ(レーザープリンタは使用禁止)とも1校につき2機種(2台)までと、原稿台、延長コード(5m程度)とする。ただし、キーボードは3面まで持ち込んでよい。なお、キーボードがはずせない一体型の機械の場合は、3台まで持ち込んでよいが、机の上に置けるのは1台のみとする。また、控室にキーボードを持ち込んでよい。
 4. 機械システムの輸送、搬入搬出および据付けは、すべて出場校の責任において行う。なお、競技座席については、大会当日の受付時にくじ引きで決める。
 5. 審査終了後30分以内に搬出する。
 6. 文字列の先頭の数文字を入力すると自動的に以前の変換候補を表示できる機能(予測入力機能:T a bキーを押して強制的に以前の変換候補を表示する機能を含む)を持つ日本語入力システムを使用する場合はその機能をオフにして競技すること。
 7. 各学校で独自の設定がある場合は、すべて出場校の責任の下、確認し搬入すること。(例:人感センサーoff等)
- D. 競技進行手順
1. 点呼 : 受付で受け取った審査票に出場校・選手番号を記入させ、競技会場に入り、競技者の確認をする。
 2. 開始準備 : 競技の進行に関する全般的な注意を行う。
 3. 書式設定 : 機械の電源を入れ、設定など入力に必要な準備をさせる。
ヘッダーとフッターへの入力について。
a. ヘッダーに「出場順」「登録番号」「選手氏名」を左寄せで入力する。
b. フッターは中央にページ番号を出力できるようにする。
 4. 練習(5分間) : 次の通り指示する。
a. 原稿にある主題を除き、問題どおりストレートコピーで打つ。
b. 前後左右の余白は30mmとし、1行30字・1頁30行で入力する。そのための書式設定は、競技開始前に行う。
 5. 画面の新規化 : 問題は本部で用意する。(競技時間短縮のため、練習問題の印刷は行わない)
 6. 競技準備 : 新規問題が作成できる状態にする。(委員確認)
 7. 進行手順の説明 : 下記の9について説明する。
 8. 問題の配付 : 裏返しにして配付する。
 9. 競技の実施 : 次の順で行う。
a. 開始 : 「用意」で問題を表にし(約3秒)、「始め」で開始する。
b. 終了2分前 : 「8分経過、あと2分」と告げる。
c. 終了10秒前 : 「あと10秒」と告げる。
d. 終了 : 「止め」の合図ですべての機械操作を止めさせる。
確定していない文字は委員が削除する。
 10. 答案の印刷 : 答案用紙に印刷させる。印刷は競技者の責任において行う。ただし、印刷は1回とする。なお、印刷時間は10分以内とする。
 11. 答案の回収 : 審査票と答案用紙4枚まとめて、左肩をホッチキスでとめる。問題・答案用紙すべてを回収する。
 12. 競技終了時 : 機械のスイッチを切らせる。ただし、ハードディスクなどに文書が保存されている機種は、文書削除する。(委員確認)
- E. 失格規定
1. 総エラー数が、30以上の場合は失格(純字数0)とする。
 2. 競技の円滑な進行を妨げると判断されるトラブルが発生した場合は失格とする。
① 明らかに本人のエラーにより印刷できない場合、及び印刷開始の指示から10分間を越えた場合。
② 競技中に機械が故障した場合
③ その他、競技委員が競技の円滑な進行が妨げられると判断した場合
 3. 問題文の一部または全部を記憶媒体に保存させたまま、次の競技者にその媒体を引き継いだ場合、その団体を失格とする。
 4. 機械システムの規定に反した場合、その個人および団体を失格とする。(次の競技者に問題を引き継いだとみなされる。)
- F. 審査のさだめ
1. エラー1箇所について10字減とする。その他に関しては全商協会主催ビジネス文書実務検定試験速度採点基準の定めるところによる。
 2. 印刷時エラーの減点
①用紙の裏面に印刷した場合 ②逆さに印刷した場合 ③印刷した答案がタイトルにかかった場合(ただし、印刷した文字が判読できない場合は、さらにその文字数分をエラーとする) ④用紙が破れた場合
以上の場合は、全体で1エラーとする。また、配付した用紙1枚ごとに1エラーとする。なお、④の場合は、再印刷が可能な状態であればこれを認める。
 3. 書式設定のエラーの減点
① 行数の過不足については全体で1エラーとする。
② 桁数の過不足については全体で1エラーとする。
 4. フォントは全角とし、プロポーショナルフォントは使用しないこと。
 5. その他については審査委員会の審査に基づき審査委員長が決定する。
- G. その他
1. レーザープリンタの持ち込みは不可。
 2. 持ち込みプリンタでの印刷練習を必ずしてくること。
 3. 延長ドラムコード、ガムテープ、ステープラ(ホッチキス)、筆記用具、練習問題等を持っていくこと。
 4. 選手・補欠の携帯電話は、電源を切り、引率顧問が預かること。